

WCS用稲栽培の省力化に向けて

～WCS用稲の直は栽培について～

1 活動のねらい

八千代市のWCS用稲栽培は平成25年度から始まり、現状では畜産農家の稲WCS需要量に対して生産量が不足しています。昨今の輸入飼料の高騰により、今後も地域内で得られる安価な自給飼料の需要増加が見込まれます。そこで、地域内飼料としてのWCS用稲を生産拡大するため、直は栽培による省力化技術について実証しました。

2 課題の背景

千葉地域のWCS用稲は、八千代市を中心に生産されており、平成30年度から始まった米政策に後押しされ、令和3年度の生産面積は約21haでした。

WCS用稲は収穫以降の作業はコントラクター組織が担うため、大規模水稲経営体が、経営の中にWCS用稲生産を取り入れることは、秋作業の負担軽減となります。しかし、畜産農家の稲WCS需要に対応するためには、生産工程の更なる省力化が必要でした。

そこで、育苗作業を省くことができ、短時間で播種ができる水稲の乾田直はをWCS用稲の専用品種で行い、その生育状況と収量性について調査しました。

3 普及活動の経過・成果

(1) 栽培概要 (表1参照)

表1 WCS用稲直は栽培概要

品種名	栽培面積	播種量	播種日	出芽日	基肥施用量	出穂期
	(a)	(kg/10a)	(月日)	(月日)	(kg/10a)	(月日)
たちあやか (中生)	294.5	6	4月12日	5月6日頃	45	8月6日頃
たちすすか (晩生)	344.7	6	4月12日	5月6日頃	45	8月25日頃

基 肥・・・くみあい直播1発コシヒカリ15

たちあやか・・・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強の中生品種

たちすすか・・・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強の極晩生品種



写真1 は種前のほ場均平作業

(2) 生育調査及び収量調査の結果 (表2、表3参照)

生育調査は、各品種1mの範囲の株を3箇所計測しました。

草丈、茎数とも「たちあやか」のほうが上回り、生育が旺盛でした。葉色は両品種とも同程度で推移しましたが、8月6日の調査では「たちすすか」の葉色が淡くなりました。



写真2 出芽の状況 (5月6日)

収量は、「たちあやか」が8月27～29日に収穫し、2,850kg/10aであったのに対し、「たちすずか」が10月21～25日収穫3,180kg/10aとなり、11%程度上回りました。

表2 WCS用稲直は栽培の生育調査結果

項目	品種	調査日			
		5月14日	6月18日	7月16日	8月6日
平均草丈 (cm)	たちあやか	10.5	45.5	90.1	122.5
	たちすずか	8.8	36.8	81.1	99.8
平均莖数 (本/m ²)	たちあやか	—	386.4	373.8	389.6
	たちすずか	—	294.9	376.6	366.0
平均葉色 (SPAD値)	たちあやか	—	37.4	37.5	40.7
	たちすずか	—	36.5	39.5	34.0

表3 除草剤の使用状況

散布月日	4月22日	5月6日	6月18日	7月5日
除草剤	ラウンドアップ マックスロード	マーシエット乳剤	クリンチャーバス	トドメバス

(3) 生産者の意見

ア 省力化について

は種にかかった時間は640aで4時間程度と短く、育苗の手間もかからなかったため省力的であった。

イ 栽培上の問題点

除草剤散布のタイミングが難しかった。4月から7月まで4回散布したが、条間の除草が不十分であったため、初期生育が停滞気味であった。

4 今後の課題

今回の実証では、省力化の効果は見られましたが、八千代市内の移植栽培のWCS用稲の平均収量3,000～3,100kg/10aと比較して、やや低い結果でした。これは稲の生育初期に雑草防除が十分できなかったことが要因であると考えられます。大規模水稲経営体が直は栽培をWCS用稲に取り入れるためには、主食用米や移植栽培も含め、栽培管理作業を適期に行うための栽培計画の作成が必要です。



写真3 ラッピング作業

5 担当者 八千代グループ 原 浩文

6 協力機関 八千代市、JA八千代市